

家庭学習のすすめ




綾部市立綾部中学校

も く じ

	ページ
1 小学校と中学校の違い	…… 1
2 学習する教科について	…… 1
3 各教科の目標と学習内容について	…… 2
4 毎日の予習・復習の仕方について	…… 7
5 定期テストについて	…… 10
6 定期テストに向けた学習方法	…… 11
7 最後に	…… 13



1 小学校と中学校の違い

	小 学 校	中 学 校
授業時間	おもに45分間	おもに50分間 小学校以上に忍耐力・体力（背筋等）が必要となります。
休憩時間		遊び時間ではなく、次の授業の教室への移動と授業の準備をする時間です。 ベル着からベル開始へ
勉強する教科	国語・社会・算数・理科・音楽・図画工作・体育・家庭・総合的な学習の時間	必修教科 国語・数学・社会（地理・歴史・公民）・理科（第1分野・第2分野）・英語・音楽・美術・保健体育・技術家庭 選択教科 総合的な学習の時間
教科担当の先生	おもに担任の先生による授業	教科ごとに毎時間の先生が変わる教科担任制となります。
宿題	ほとんど毎日	教科によって出たりで出なかったりで、自分で学習する強い意志が重要となります。

2 学習する教科について

必修教科

「指導要領」というものに示されている内容を、教科書を使って全国の中学生が学習する教科です。



選択教科

生徒のみなさんが自分の興味・関心に従って、学習したい教科を選び（選択し）学習する教科です。自分で課題を設定し学習したり、必修教科の補足的な学習や発展的な学習ができるなど、多様な学習活動ができます。

総合的な学習の時間

「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる」「学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える」をねらいとし、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの課題について学習活動を行います。

3 各教科の目標と学習内容について

「なぜ勉強するの?」「この勉強が将来何の役に立つの?」ということをよく聞きま
す。中学校での学習が、直接的には将来につながるかもしれませんが、でも、いつか
は保護者から離れ、自分で生活しなければならない状況になります。そうしたときに、
“自分で”世の中を“生き抜いて”いかなければなりません。そこで頼れるのは、まず
自分です。自分に対する自信です。人に惑わされない、ごまかされない自分です。自分
で、正しい判断をしていかなければなりません。判断するということは、考えるという
ことです。すなわち、「考える力」が必要となります。「そのため勉強するのは」とい
うのが1つの考えです。

勉強の中心は、学校と家庭です。まず学校の授業についてお話しします。授業にしっ
かり取り組むためには、

学習用具等、授業に必要なものを整える。(忘れ物をしない)

授業中、他のことをしない。(私語、違う教科の宿題をする、手紙を書く等)

以下に、必修教科の目標を達成するため、授業に臨むにあたって大切なことを記して
います。

国 語 目 標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるととも
に、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を
尊重する態度を育てる。

また、社会生活に必要な言語能力を育成することを重視し、特に、自分の考え
を持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて適切に表現する能力、
目的に応じた的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てることを重視してい
ます。

国語は“ことば”の勉強です。私たちは、人と話したり、本
を読んだり、文章を書いたりして知識を広めます。また、何よ
り私たちは、頭の中で考えるとき、“ことば”を使って考えて
います。すなわち、頭の中で「黙って話している」のです。従
って深く物事を考えたり、知識を広めるためには“ことば”の
学習が大切となります。



このように考えると、国語の勉強は学校の授業だけでなく、本や新聞を読んだり、
一人静かに考えたり、他人の意見を耳を傾けることも、「国語の勉強」につながる
こととなります。学校での国語の授業は、こうした「普段(毎日)の国語の勉強」
を整理し、まとめる時間ともいえます。

授業中大切なことは、「読む・書く・話す・聞く・考える」を積極的に行うこと
です。一つ一つの言葉から、豊かに広がるイメージを思い浮かべながら、授業の取
り組んでいきましょう。

社 会 目 標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民として基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

また、諸資料を活用して思考・判断できるように、学習の過程を重視しています。そして、学び方を学ぶ学習を重視し、社会科における問題解決的な能力の育成を重視しています。

社会科の学習はどうしても覚える内容が多く感じます。ただ、授業の中で聞いたことを、そのまま覚えたのではすぐに忘れてしまいます。ですが、自分で調べたり、作業したりすると、よく覚えているものです。例えば、地理的分野では、略地図を書いたり、グラフを書いたりする。歴史的分野では、略年表に「どんな時期に、どんなところで、どんな人が、どんなことをしたのか」といった内容をしるし、その事象が起こった理由を考える。公民的分野では、自分でテーマを設定し、調べ学習を行うなどです。それとともに、写真や新聞記事、統計などの資料を日常的に取り扱うことが大切です。



数 学 目 標

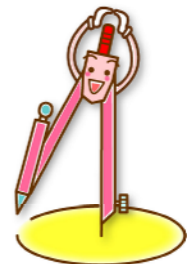
数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

小学校の算数と中学校の数学の違いは、何でしょうか。

例えば、負の数（マイナスという概念）が計算に現れることや、 x や y などの文字を使うことなどがあります。「こんな計算やって、将来何の役に立つの?」とよく聞きます。しかし、順序立てて物事を考える力、論理的に考える力、グラフを読みとる力などは、数学の授業で学習したことが役立ってきます。

学習していく上で大切なことは、計算であれば、暗算になれてしまわないことです。最初に、式を順序立てて変形していく【()をはずす、わり算を分数にあらわす、+ - に気をつける】ことを充分理解し、繰り返し練習した上で、暗算をするようにする、ことが大切です。

また、中学校1年生からの学習（実際には小学校のときから）が、2年生、3年生と積み上がっていきますので、1年生の学習を大切にしましょう。



理 科 目 標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

また、問題を解決する能力や態度を育てることを重視しています。

理科の授業においては、観察・実験などを行う際、「何のためにやっているのか」「何をしているのか」を考え臨むこと、すなわち目的意識をもって授業に取り組むことがもっとも大切です。そして、他人まかせにせず、目的意識をもって、“自分で”観察、実験を行うことが大切です。「はてな？なぜだろう？」「この実験の結果は、おそらくこうなる」というように、疑問に持つ、結果を予測することが、授業の中で考えていくことが根本です。



英 語 目 標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

また、実践的コミュニケーション能力の育成、特に音声によるコミュニケーション能力の育成を重視しています。

英語は、単語を書いたりする学習はほとんどの人が、中学校からのスタートとなります。最初、新しい教科、学び方に新鮮さを感じ、楽しいと感じていた人たちが、2学期になり、1年生も終わる頃になると、苦手と感じるようになるのはなぜでしょうか。赤ちゃんが言葉を獲得していく道筋は、おそらく万国共通でしょう。それを考えれば、中学生だといっても、同じ道筋をたどっていくことが重要だと考えます。

第一はとにかく英語に慣れること（＝聞くこと）です。授業の時間だけでは不足しますので、テレビ、ラジオ、テープ、CDなどを使って、とにかく聞くことです。こうした点から授業では、コミュニケーションを重視しています。すなわち、「聞き、話すこと」です。そうして、国語の欄にも書きましたが、「聞く・話す・読む・書く」といったことをきちんとやるのが大切になってきます。

私たちは、小さいときから聞いてきた言葉（日本語）を、小学校になってひらがなを習い、言葉を漢字で表すように繰り返し繰り返し練習してきました。英語もそうした地道な作業（＝反復練習）なくして身に付くことはありません。小学校の6年間で習ってきた漢字は1000字ほどでした。中学3年間で出てくる英語の単語は900語ほどです。これらの単語について、ひらがなや漢字を練習してきたのと同じように、繰り返し、発音しながら、書く練習をしていくことが重要だと思います。



音 楽 目 標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

また、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度の育成、音楽の豊かさや美しさを感じるとともに、表現及び鑑賞の基礎的な能力を育てることを重視しています。

音楽は私たちの生活を豊かにし、自分自身を励ましてくれたり、元気づけたりしてくれます。個人で楽しむ音楽だけでなく、学級や学年の集団の中で、表現したり、鑑賞したりする中で、生涯にわたって音楽に親しむ気持ちを育てていきましょう。



美 術 目 標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

また、生活を明るく豊かに生涯にわたり楽しく描いたりつくったりする創造活動を重視し、そのための表現や鑑賞の基礎的な能力を育成することを重視します。

この教科では、感動する心や美しさなどの価値、他者の心情などを感じ取れる豊かな感性が、求められます。美意識を高め、自分の表現活動を広げ、豊かな情操を養っていきましょう。



保健体育 目 標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

また、運動に課題を持ち、自ら考えたり活動を工夫したりして、その課題を解決することを重視します。

生涯スポーツとの関連から、自発的に運動する気持ちが大切です。陸上や器械運動などは、自分にあった目標設定を行い、達成する喜びを味わうことが大切です。また、バレーやバスケットなどの競争型の運動は、運動の仕方やルール、チーム編成、作戦など、話し合いや対話といったよい雰囲気の中で、学習を進めていくことが大切です。



技 術 ・ 家 庭 技 術 の 目 標

実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

家 庭 の 目 標

実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

実際の生活に役立たせるための知識や技術を習得することが大切です。従って、「生活を通して学ぶ」ということが重要です。また逆に、学校で学習した知識や技術を、「普段の生活の中に生かす」ことも大切です。また、数学や理科、保健体育などとも関連していますので、それらの教科と合わせて学習することも大切です。



男女共同参画社会の実現が言われています。「男だから」「女だから」という観点で、授業に臨まないことです。



4 毎日の予習・復習の仕方について

予習・復習の意義について

中学校では、毎日定期的に宿題が出ることはあまりありません。従って、自分で学習（自学自習）する意志が重要です。家庭学習には予習と復習があります。

予習・・・授業の前日などに、教科書を見たり、単語を調べたりする学習をいいます。

復習・・・授業が終わった後、教科書を見直す、ノートを整理し直す、授業でやった問題をやってみる、家にあるワークや問題集をやってみる、といった学習をいいます。

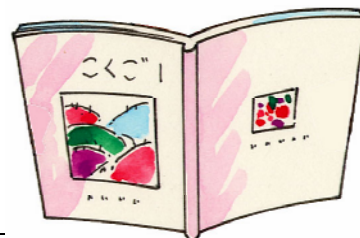
家庭学習時間の関係もあり、予習をする余裕がないときは、復習に力を入れましょう。



家庭学習の仕方

- 「机に向かって座る習慣」をつけることが大切です。
- 復習に力を入れることです。
- 単純作業でリズムをつかみます。
とりかかりは、英単語の練習や漢字練習などの作業からはいると、学習のリズムがつかみやすくなります。

各教科での学習の仕方について

教科	予 習 ・ 復 習 の 仕 方
国 語	<p>予習 <u>何より、教科書の文章を読むことです。</u>そして、おおよそのあらましをつかみます。次に、知らない漢字を調べたり、知らない言葉の意味を調べておきます。 また、普段から新聞・本など、身近にあるもので、「読む」習慣をつけておくことが大切です。</p> <p>復習 <u>学習したその日に必ずしましょう。</u> 声をあげての音読、漢字練習などを行います。そして、授業ノートを見て復習し、ワークや問題集に取り組みます。</p> <p>※ワンポイントアドバイス 国語の読む力は、他の全ての教科に結びつきます。ほとんどのテストは、問題用紙を読み、問われていることの意味をつかむことから始まります。「読む」「漢字の練習」をしっかり行いましょう。</p>



<p>社 会</p>	<p>予習 事前に授業するところの教科書を読んでおきます。 教科書の目次をながめたりして、全体の学習内容を知っておきます。</p> <p>復習 地理的分野 地名、地勢に関する用語（川、山脈、平野など）をしっかりと覚えます。 略地図をフリーハンドなどで書き、場所の感覚を身につけます。 できるだけ、用語と実物を結びつけます。 地域の特徴をつかみます。</p> <p>歴史的分野 時代の流れをつかみます。 （教科書を繰り返し読む、<u>略年表を書く</u>） 時代ごとの特徴（政治のしくみ、生産の方法、文化の特徴）をまとめます。 教科書に出てくる人物の肖像画と名前を一致させ覚えます。</p> <p>公民的分野 用語をしっかりと覚えます。 図表で表されているものを自分で再度まとめます。 「政治」「経済」「国際」ごとに簡単にまとめます。 自分でテーマを決めてまとめます。 例） 環境、綾部の文化、まちおこし、農業と食糧問題、 少子高齢化、人口問題など</p> <p>※ワンポイントアドバイス テレビの紀行番組やクイズを見るなど、さまざまな場面で学習できます。 地理的分野では、表や図などのデータ、歴史的分野では人物の肖像画や文化財などの写真がたくさん出てくるので、読みとる力をつけます。また、公民的分野では、新聞やテレビのニュースなどから、現在の政治や経済の動きをつかんでおきます。</p> 
<p>数 学</p>	<p>予習 まず、教科書を読みます。そして、何を学ぶのか、つかみます。 例題を解き方にそって、自分でやってみます。 難しい用語（方程式、関数、平方根など）がある場合、チェックし、その意味を考えます。また、授業で質問できるよう準備します。</p> <p>復習 <u>復習を中心に取り組みます。</u> ノートや教科書を見ながら、授業でやった問題をもう一度やってみます。やり方がわかっていれば、参考書や問題集などの問題を解きます。とにかく自分で考えて、紙に書くことが大切です。</p> 

間違えたときは、赤ペンでチェックを入れ、なぜ間違えたか、考えます。

学習を習慣づけます。

問題数は1問でも数問でもよいので、1日10分、短時間でも頭を使うことが大切です。

※ワンポイントアドバイス

一度自分で解いた問題を答えを隠してもう一度解く。特に間違えた問題で繰り返し行くと、同じ間違いをしなくなり、自分の力になります。

理 科

予習

事前に教科書を読んでおくことが大切です。

授業で実験や観察・実習などの前日は、実験のねらい・方法を読み、操作の方法をイメージしたり、結果を予想してみます。

復習

復習を大切にします。

教科書とノートに目を通し、その日学んだことが理解できたかをチェックします。そして、新しく出てきた言葉があれば、その意味を理解します。(重要語句は、教科書では太字になっています。)

実験の操作等で注意すること、器具の使い方をチェックしておきます。

公式や計算問題が出たときは、練習問題をやります。



※ワンポイントアドバイス

授業に積極的に臨むことが第一です。実験や観察などは、怖がらず、嫌がらず、自分でやってみることで、そして、自分で見たこと、体験したことを家でまとめることです。

英 語

予習

新しく出てきた英単語の意味を調べて、ノートに書きます。
教科書の本文を写し、読む練習をします。

復習

学習し、わかったこと(基本文など)をノートに書きます。

できるだけ、何も見ずに書くようにします。

英単語を繰り返し書いて練習し、覚えるようにします。

教科書の本文を繰り返し読みます。

ワークや問題集などの問題をやってみます。

※ワンポイントアドバイス

教科書の本文を暗唱できるぐらいになるといいです。また、英語に慣れ親しむため、授業がある日だけでなく、できるだけ毎日読んだり書いたりすることが大切です。



5 定期テストについて

毎学年で学期ごとに、定期的・集中的にテストを実施します。国語・社会・数学・理科・英語の5教科は毎回あるので、1～2ヶ月分がテスト範囲となります。また、音楽・美術・保健体育・技術家庭の4教科はその学期で学習した内容がテスト範囲となります。したがって、テストに向けて勉強する内容は、単元ごとに行われる小学校と比べて多く（広く）なり、早いうちから準備（家庭学習）する必要があります。

中間テスト 国・社・数・理・英の5教科について、2日間で実施します。

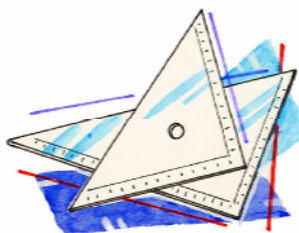
期末テスト 中間テストの5教科に音・美・保体・技家が加わった9教科について、3日間で実施します。

各学期のおおよその実施時期は次の通りです。

1学期中間テスト	5月20日過ぎ
期末テスト	7月1日前後
2学期中間テスト	10月20日過ぎ
期末テスト	12月1日過ぎ
3学期期末テスト	3月6日前後



3学期末テストは1年間のまとめとして、テスト範囲を「1年間に学習した内容全て」とする教科もあります。



6 定期テストに向けた学習方法

2～1週間前から始めます。一日三～四教科ずつ、一教科最低30分として、一日計2時間前後は学習するようにします。


そして、1週間から2週間分の学習計画表をつくります。

できれば、帰宅してから、食事をする時間なども含めて、30分単位で記入します。ただし、最初からあまりに詳しく、無理な計画を立てると長続きしませんので、最初は大ざっぱに、「できなくても仕方がない」程度で始めましょう。

例

	月 日 (曜日) テスト5日前	月 日 (曜日) テスト4日前
5:00		帰宅 犬の散歩
6:00	帰宅 [学習] 数学 ; 教科書の問題をする。	[学習] 国語 ; ノートの内容を確認する。
7:00		
8:00	食事 (テレビ含む) テレビ (ゲーム)	食事 (テレビ含む) [学習] 英語 ; テスト範囲の単語の書き練習
9:00		
10:00	[学習] 社会 ; 重要人物を覚える。 理科 ; 重要語句を覚える。	テレビ [学習] 数学 ; ワークの問題をする。
11:00		
12:00	入浴、リラックスタイム 就寝	入浴、リラックスタイム 就寝

教科	勉強の仕方
国語	<p>テスト範囲の教科書部分を3～4回読む。 新出漢字の読み書きを繰り返し練習する。 授業ノートを使って、教科書の内容を深め、作者の心情・言いたいことをつかんでおくこと。 文法がテスト範囲に入っていれば、その練習をする。 ワーク・問題集で、繰り返し練習する。</p>
社会	<p>まず、テスト範囲の教科書部分を3～4回読む。 そして、ノートに重要事項を記入 <u>重要語句 (教科書の太字部分等) を繰り返し覚える。</u> ワーク・問題集をやる。(1回目) 引き続き、ワーク・問題集を繰り返しやる。 (2～3回目は、間違ったところを中心に) できれば、問題集は1～2冊準備し、繰り返しやる。</p> <p>～ をやれば、徐々に重要ポイントがわかってくる。 また、自分で地図を書く、略年表を書くなど、細かい作業を早いうちからやっておくこと。</p>

<p>数 学</p>	<p>計算の場合 教科書を使って問題の解き方を確認し、教科書の練習問題やワーク・問題集を繰り返しやる。 とにかく練習問題を多くやる。さらに、章末の問題など、難しい問題にもチャレンジする。 文章題は、問われていることをよく考え、まず自分でやる。間違えた場合は、繰り返しやり直す。</p> <p>グラフの場合 表からグラフを作成できるようにする。 直線のグラフなどは定規を使って、きちんと書けるようにする。 式からグラフを書く、グラフから式を書く、ことを繰り返す。</p> <p>図形の場合、 いやがらずに、問題にトライすること。 記号の意味を覚えること。(、π、∞、\neq、\parallelなど) 作図は、定規・コンパスを使って、書けるようにする。 定義・定理を覚え、角度や辺の長さ、面積、体積を求めたり、証明問題をやる。</p> 
<p>理 科</p>	<p>まず、テスト範囲の教科書部分を3～4回読む。 教科書・ノートを使って学習したことを確認する。 (実験や観察の場合は、操作の方法や器具の使い方、注意点なども理解しておく) 重要語句(教科書の太字等)を理解する。 (特に、実験結果などは、詳しく整理しておく) ワーク・問題集をする。(1回目) 引き続き、ワーク・問題集を繰り返しやる。 (2～3回目は、間違ったところを中心に) できれば、問題集は1～2冊準備し、繰り返しやる。</p> <p>～をやれば、徐々に重要ポイントがわかってくる。 実験操作・実習を大切にすること。</p>
<p>英 語</p>	<p>まず、テスト範囲の教科書部分を3～4回読む。 (暗唱できていればよい) 教科書の基本文・本文を繰り返し書く。(見ずに書けるとよい。) (文法のおさらいをする) 単語を繰り返し練習し、覚えきる。 (以前に出てきた単語も、書かないと忘れるので、練習する。) ワーク・問題集を繰り返しやる。</p>

7 最後に(何より大事にすること・・・)

○家庭で

毎日の生活習慣を大切にします。

朝食をしっかりとる。

脳の活性化を図るため、朝食の重要性が言われています。

「テレビを見る」「ゲームをする」時間を1時間～2時間以内にする。

「テレビやゲームが3時間を超えると・・・」というデータがあります。

家庭学習を習慣づける。

とにかく、10分でも30分でも机に向かうことです。

早く寝るようにする。

寝起きが悪い(睡眠不足)と、学習に集中できません。

学習する環境を整備します。

部屋が散らかった状態、テレビや音楽、ゲームが気になる環境では、集中できません。家族の人にも協力してもらいましょう。

○学校で

授業に臨む意欲・関心・態度が大切です。

忘れ物をしない、提出物を期限までにしっかり出す。

部活動があるうちは、部活動に励む。



中学校に入学して

みなさんは、綾部中学校に入学し、体育祭や文化祭などの学校行事、部活動、生徒会活動などの自治活動など、希望を抱いていることと思います。この3年間は、心も体も大きく成長するときです。皆さんの成長を大いに期待しています。



さて、いきなりの話ですが、中学校を卒業するということは、義務教育としての学習が終わることを意味します。中学卒業時には、“自分で”進路を選択・決定し、実現（切りひらいて）しなければなりません。今、進路先は多種多様にあります。具体的なことについては1年 2年 3年と、より詳しく学習していくことになります。

ただ、綾部高校などの公立高校の場合、3年生の成績だけでなく、1・2年生の成績も合否の参考にされます。具体的な進路は「考えたこともない」「まだまだわからない」という人がほとんどでしょう。「3年生になってから・・・」という人も多いと思いますが、“3年生になってから頑張る”のでは遅い、というのが今の現実です。かといって、1年生のうちから“受験勉強”をなさい、と言っているのでもありません。「1・2年生からコツコツと毎日の授業や家庭学習を頑張ることが、3年生になって進路先を決定するときに、大きくつながってきますよ」ということなのです。

そうしたことから、「中学校の教科の学習ってどんなことをするんだろう?」「毎日の授業の様子は?」「家庭学習はどうすればいいんだろう?」「テスト前はどんなふうに学習したらよいのだろう?」という不安や疑問に答えようと、この冊子をつくりました。



名 前	
-----	--